

割れた街 療やす歌

石川凍結された「珠洲」

珠洲原発は1975年に竣工され、2003年に凍結された珠洲原発。その反対運動に取り組んだ理容店主が、アマチュアミュージシャンに「転身」した。コンサートにはかつての推進派も集う。ギターを手にするととき、対立の傷が癒やされてきたと感じる。

珠洲市が誘致を表明し、76年に関西、中部、北陸の3電力が共同開発の構想を発表した。賛否を巡って住民は二つに割れ、市長選や県議選で激しく争った。

理容店を営む橋本弘明さん(64)は89年の市長選で、反対派候補の事務所の電話番を引き受けた。「チエルノブリの事故(86年)とかあつたし、直感的に原発は危ないとと思った」。すぐには推進派に知られ、「(市職員の弟は)出世できんぞ」と脅され、無言電話が寄せられたという。

自営業者の多くは「商売に差し障る」と距離を置いたが、十数年、ビラづくりや集会の活動を続けた。電力需要の低迷もあり、電力3社は03年に「凍結」

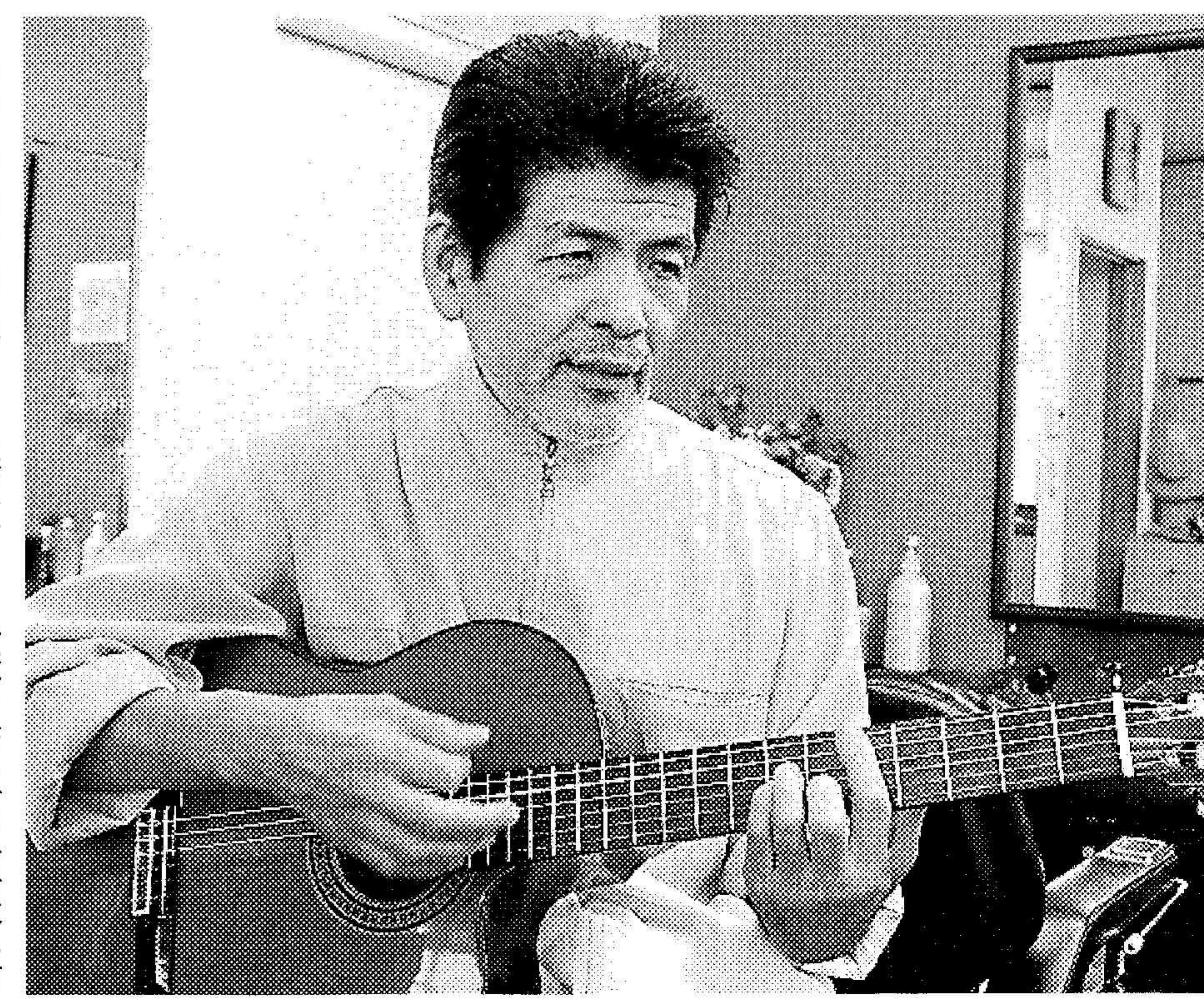
**原発列島
ニッポン**

を表明。時間ができた橋本さんは、若い頃にギターの弾き語りのアルバイトをしていたことを思い出し、ギターを手に取った。

これまでに「理容店主のささやき」と題したCD11枚を自主制作した。演歌やフォークソングからラテン音楽まで、192曲を収録している。店の客に無料で配るうちに、年2、3回は舞台に立つようになった。懐かしい歌を聴くため、

橋本さんは「みんなで音楽を楽しめるのは、融和の雰囲気が出てきたからでしょう。思うところはあるけど、これからも狭い土地で一緒に生きていかないけれども、珠洲の人は腹黒うなつたかもしれんね」。

(藤井満)



自宅の理容店でスペイン製のクラシックギターを爪弾く橋本弘明さん=石川県珠洲市飯田町

反対派の理容店主 推進派も集う